



川俣小学校「学校だより」 輝くひとみ

令和3年10月8日(金) 第26号

教育目標
☆すすんで学ぶ子ども
☆思いやりのある子ども
☆ねばり強い子ども
☆たくましい子ども

発行者 校長 本名 武



就学時健診で伝えたこと



今週の水曜日、来年度就学予定者健康診断の際に、小学校、特にピカピカの1年生の学校生活の原動力となる「意欲と自信」を育む接し方や言葉かけ、働きかけや見守り等についてお話させていただきました。そのうちの何点かを紹介いたします。



○指示や先回りの世話より、「話を受け止めて聞く」「乗り越えを見守る」構えの大切さ
よかれと思つての指示や催促、先回りの世話や保護が、子どもの「考えて自己決定し行動する」生き抜く力を育むチャンスをなくしてしまうこともある。

→ピンチを乗り越える思考の機会と時間：自己決定(価値付け)→満足感・次への意欲と自信。

→子どもが自らを話す：聞いてもらえた満足感：自己決定：言われなくても動く子に！

→「ぼく・・・なんだ。」「そう、・・・なんだね。」→「だから、こうしてみようかな。」

※受容し繰り返したり、価値づけたり ※自己決定・自主的取組・プラスの連鎖

○「(I am OK). You are OK.」自己肯定、他者肯定。ありのままを受け入れる大切さ
notがつくとき→兄弟姉妹や他との比較から生まれることが多い。子どもは誰かと比較する存在でない。生まれるのは劣等感、卑下、反抗、自信喪失、無気力、孤立...etc。

→今上手いかななくても「いいよ！やってごらん、次はできるよ！」心に灯をともし存在に。

→「次はいけるよ！ここまでよくがんばったね！前よりできたね！すごい感心！」

○「勉強、運動、生活」等の「意欲と自信」のやる気スイッチのヒント

子どもは「楽しく競争したい、力を試したい」

→姿勢立派だね、片付け上手だね、なわとび上手だね、走るの上手！ 個性の見取り

→自分のよさの自覚のチャンス、自信と意欲に直結。

子どもは「真似をしたい、やってみたい」

→兄姉の真似、親の真似、先生の真似、やってみたい・・・好奇心

子どもは「褒めて・認めてもらいたい」

→なわとび：見ててください！認められ、自信、意欲、挑戦心・・・プラスの連鎖に。

～学年が進んでも、子どもが伸びる接し方等の基本は同じように考えます。～



役割取得能力

役割取得能力は「相手の立場になって、相手の考えや気持ちを理解し、対人行動等にそのことを生かす力」のことです。子ども



もたちの学校生活においては、集団活動や友達関係等において、極めて大事な力となります。大人社会での人間関係等でも同様です。人としての優しさ、思いやり、人徳、慕われる人、あるいはその逆も役割取得能力に関わるどころ大です。学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」でもその中核となる部分です。川俣小では、自分の言動で相手がどういう気持ちになるかを考えられる子ども、相手の立場になってしっかり考え行動できる子どもの育成に向け、より一層全校あげて取り組んでいきたいと思ひます。